

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500378
法人名	社会福祉法人 常美会
事業所名	グループホームうわばら
所在地	愛媛県新居浜市上原4丁目1番15号
自己評価作成日	平成25年1月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

恵まれた大自然の中で生活されています。天気の良い日は、瀬戸内の島々を眺望する事が出来、あきる事はありません。ホームは木造平屋建て。落ち着いた雰囲気の中、ゆったりと毎日を過ごされています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年2月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ユニットの間には、中庭や洗濯物干し場を作っておられ、居間や廊下等から出て、建物の周りを一回りできるようになっている。敷地内の菜園や庭はシルバー人材の方が世話や手入れをしてくれるようになっている。居間の天井は高く、梁が見える造りで開放感があり、又、窓からは山々の風景が見えて、調査訪問時には山の木々に雪が積もっているのが見えた。時には、さるやキジの姿も見られるそうだ。転倒防止のためにできるだけものを置かず、シンプルにされているユニットや、お雛様を飾り、ご家族が毎月お花を生け替えてくださるユニットもある。感染症が蔓延したこともあって、事業所では次亜塩素酸ナトリウムで、手すりや手指の消毒・食器を並べる個々のトレーにもスプレーで消毒をされている。又、年に2回は掃除の業者が入って、ワックス掛けや窓ふきを行ってくれるようになっている。居間の一角には掘りごたつの和室があり、管理者は、「利用者とは鍋を囲むような機会も作りたい」と話しておられた。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームうわばら

(ユニット名) うめユニット

記入者(管理者)

氏名 坂田 恵

評価完了日 25 年 1 月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b></p> 理念の必要性を最初のユニット会で話し合い、ホームの理念、ユニットの理念を独自に作りあげた。私達はこの理念を目指して歩んで行かなければならない。 <p><b>(外部評価)</b></p> 管理者は、最近、「家に帰りたい」と言う利用者と法人施設の屋上に上り、景色を眺めていた際、利用者の方が事業所を見つけて、「我が家が見える」と言われたことに感激された。管理者は、開設時から理念の作成について考え続けておられ、そのような出来事がきっかけとなり事業所理念を、「利用者一人ひとりにとって居心地の良い我が家」になるように、「和我家」(わがや)と決められた。又、各ユニットごとに、リーダーが、「しあわせづくり」「十人十色」とユニット理念を作り、玄関等に掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p><b>(自己評価)</b></p> 地域のイベント等に参加したり、近くの神社に初詣、日常の散歩等を通して、自然に地域に溶け込んでいきたい。法人全体で行なわれる盆踊り大会や、校区の夏祭りに参加し、地域の方々との交流を行っている。 <p><b>(外部評価)</b></p> 法人は、介護施設の待機者や地域に認知症高齢者が多いこと等を踏まえて、当地域にグループホームを開設された。事務長は、地域密着型サービス事業所として、「地域に貢献していきたい」と話しておられた。運営推進会議に参加して下さっている老人クラブの方が、お正月には、玄関に飾る門松を持って来てくださった。又、事業所の前の道は、地域の方達の散歩コースになっており、時には、犬の散歩の途中に寄ってくださる方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b></p> 高齢者が多い地域である為、施設に興味を持って下さる方がおられる。気さくに話が出来るような環境作り、職員の指導を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) メンバーの方の質問が多く、これからの取組みが楽しみである。外部からの評価を真摯に受け止め、サービス向上に活かしていきたい。</p> <p>(外部評価) 開設から1年間に、会議を1回、ユニットの居間で開催されている。この一年間は、感染症のまん延や職員の体制のこともあって、会議開催の取組みが遅れている状態である。11月に、第一回会議を開催された際には、理事長から挨拶を行い、事業所関係者と、自治会長や老人クラブの方、ご家族や利用者等、会議参加者も自己紹介をされた。参加者からは、入居条件やサービスについて質問等も多く出された。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市職員の方も運営推進会議に参加され、話し合いがおこなわれている。事故報告書等、市役所提出時には状況説明と、改善策等の話し合いをおこなっている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者の方は、運営推進会議に参加されて、事業所の活動の報告を受けたり、利用者状況等について質問等もされている。事業所は、今後、他事業所とも交流して、「ひとりで出かけていく利用者の対応」等、ケアの工夫点について意見交換したいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間の施錠は安全対策の為にこなっている。施設外に出られる方がおり、職員的人数的に見守りが出来ない場合は、施錠をおこなう。</p> <p>(外部評価) 玄関やユニット入口は自動ドアになっている。「帰りたい」気持ち強い利用者がおられる場合は、ドアの電源を切って手動で開閉するようにされており、利用者がドア辺りに来られた際には、職員が声をかけるようにされている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  「介護者のストレスから虐待が始まる。」と言われている。職員の精神面でのケア、職員の情報が管理者に伝わってくるような環境作りを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  該当者はいないが、今後の為に研修会等に参加し、制度の仕組みについて理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入所契約時にわかりやすく説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  苦情、要望があれば、すぐその場にいる職員全員に伝達。情報が全職員に伝わるよう、連絡ノートの活用。その場で解決できることは素早く行う。解決策が難しい場合は、同法人内の上層部に相談、助言を求める。  (外部評価)  民生委員の方と、法人の評議員の方を、苦情の窓口として重要事項説明書に明示されている。ご家族は、親戚の方と一緒に連れて来られたり、自然環境や事業所内の設備等、「環境面がいい」と感想をくださることもあるようだ。ご家族の来訪時には、「何でも言ってください」と、話して、ご家族の意見や要望を聞くようにされているが、現在は、意見等をいただくことは少ないようだ。法人が、年3回発行する広報誌の中には、グループホームの活動を1ページ分載せておられ、避難訓練や誕生日、散歩の様子等を写真入りで報告されている。	ご家族が知りたい情報をご家族の視点から情報提供される等、事業所のことをさらに知ってもらえるような情報発信の工夫が期待される。事業所では、「家族会」の開催も検討されている。ご家族と事業所理念を共有しながら、ともに活動されたり、一緒に勉強するような機会を作り、事業所の取り組みについて、さらに具体的に意見をうかがっていかれてほしい。ご家族との関係を深めるような取り組みを工夫して、利用者の「しあわせづくり」の支援につなげていかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行われるユニット会等で得られた必要な事項は、業務等で反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 法人内施設から異動して来られた職員が多く、グループホーム運営は初めてということもあって、数名の職員は、開設時に市内の他グループホームを見学された。又、法人は、職員の負担等も考慮して、利用者を1名ずつ増やす等されており、職員は、ミーティング等で話し合いながら、取り組みを1歩ずつすすめていこうとされている。歌を歌うことが好きな利用者が多いこともあり、水・土曜日は、「カラオケの日」と決めておられる。ご家族がちょうど来られた時には、「楽しそうね」と感想を話されるようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の家庭事情、健康状態、能力等を把握し、支援を行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 同法人内で行われている内部研修に参加。今後、研修内容に応じて、外部研修に参加していく。 当法人において、スキルの向上を目的とした、資格習得援助がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内の勉強会等には参加できているが、同業者との交流は、できていない。交流機会があれば参加していく。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してもらえる言葉掛けを心懸けている。不安が取り去られない場合は、家族への連絡をおこない、ホームに預けっぱなしという状態を作らないよう心掛けている。より深く本人への理解を深める為、担当職員を置き、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前、入所契約時の面接時等に精神面、肉体系、家族を取り巻く諸事情を伺い、本人に対する思いや希望を充分に知り得るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			状態を一番把握してる方から情報を伺い、混乱を招く対応をしないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			馴れ合いも必要だが、尊厳を持った態度で接するように、常に職員教育を行っている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			家族の状況を把握した上で、お願い出来る事はして頂き、絆を失わないよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			馴染みの美容院にカットに行かれたり、ドライブや買い物等に行かれている。年初めには、近所の神社に初詣に行かれた。ご主人の墓参りに行かれた方もおられる。会話から得られる情報から、色々な支援につなげていくよう努力している。	
			(外部評価)	
			カラオケ仲間の方達が迎えに来てくれ、一緒にランチに出かけた方は、とてもうれしそうに戻って来られたようだ。お孫さん等に、はがきを出す方は、事業所ではがきを用意されたり、一緒に投函に出かける等支援されている。又、利用者の希望でお墓参りに出かけた際には、高台にあるお墓の前でお参りできるよう支援をされた。ご本人はもちろん、ご家族の方もたいへん喜ばれたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係を十分に把握し、トラブルが起きた時は、さりげなく職員が入り、関係がこじれないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 1名退所された方がおられる。家族さんのほうから相談があり、支援をおこなった。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で訴えられる方は把握できる。言葉少ない方こそ、思いを知る必要がある事を、職員は認識し、大事にしていきたい。  (外部評価) 入居時、利用者個々の既往歴や家族構成等についての基本情報をご家族等に聞き取りまとめておられ、その後、利用者から得た情報は、個々のケース記録に書き留めるようにされている。ユニット会時には、利用者一人ひとりについて、「悩んでいること・気になること」等、職員が気が付いたことを出し合い、介護計画につなげるようにされている。100歳を超えた利用者には、ベッドに横になったり居間に出て来られたりと、ご自分のお好きなように暮らしていただけるように職員で話し合われている。ユニットリーダーは、「明るい雰囲気を作りたい」「利用者が一日1回は笑ってほしい」と、利用者の興味のあることの情報を集めて接しておられる。	事業所では、今後は、「書類を整備したい」と考えておられる。理念の実践に向けて、利用者個々のこれまでのこと・現在のこと・今後のことについて情報収集に取り組みしてほしい。さらに、職員は、日々の生活の中で、利用者が決めたり選んだりする場面を意図的に作り出し、利用者のごことをさらに知ること努めていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を一番知っている方からの情報収集や、生活歴、趣味、習慣等を知り、今の生活に生かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に毎日の状態を記録。いつもと違う事が見られた時は職員に伝達をおこない、日々の状態を把握している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3か月に一度、計画の見直しを行っている。家族の要望や、介護職員の気づき等を取り入れながらも、本人主体の計画書であることを重視している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の支援内容に沿って、職員はケース記録に記録するようになっており、3ヶ月でまとめて評価を行う仕組みになっている。入居して1回目の計画作成時には、ご家族も同席していただき、一緒に計画を立てておられ、その後は、職員が事前にご家族に電話等で要望をお聞きして、計画案を作り説明して、意見をうかがうようにされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日誌、ケース記録、伝達ノート等を活用。口頭での伝達などで情報の共有を行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>遠方の家族、高齢の家族、体調が悪い家族等に代わり、本来ならば家族対応の病院受診などにも対応。ラインをつけず、その時その時で柔軟に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域柄、買物等できる店もなく、坂道が多く、車での移動が多い。日頃の散歩等を通して、徐々に地域に溶け込んでいきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医に受診されている方が1名おられる。本人にとっては優しい医者である。が、これまで3度連絡の必要性があり、電話したところ3回とも、電話口で怒鳴られる始末。家族に連絡。担当医を変えていただきたい旨を伝えている。いざという時に動いていただけない事を懸念している。	
			(外部評価) 利用者のかかりつけ医や協力医の往診、又、受診を支援されている。利用者の状態について、法人の看護師に相談してアドバイスをもらったり、処置等をお願いするようなこともある。利用者が信頼するかかりつけ医で診てもらうことは、利用者の安心にもつながることでもあり、事業所も医療機関との関係が築けるような取り組みを探っていかれてほしい。又、医療連携体制作り等もすすめていかれてはどうだろうか。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師はいないため、同法人内の看護師より、適切な指示や相談に乗っていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 協力病院があり、日頃受診している為、顔なじみであり、何事も相談にのっていただいている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) まだ重度化の方はおられない。ホーム内でのターミナルは、看護師がいなくて不安がる職員もみられる。今後の課題として、家族の意向、職員の終末ケアの勉強会をおこなってきたい。	
			(外部評価) 管理者は、「ゆくゆくは、利用者やご家族が自然死を望まれるならば事業所で支援したい」という思いを職員に話しておられる。職員は、法人介護施設で終末期ケアの経験もあるが、支援に不安点もあるようだ。今後は、終末期のあり方について、利用者やご家族の希望等をお聞きしたり、又、事業所でできることについて職員で話し合ったりするような機会も作っていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設時にマニュアルを作成している。どう対応すればよいのか、文章化している。(職員がパニックをおこさないように。)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署立ち合いでの避難訓練を行っている。災害や、施設外徘徊者が発生した時は、同法人の協力が得られる。  (外部評価) 事業所のある地区は高齢化していることもあって、いざという時に「近所の方から協力を得ることが難しい」と考えておられ、隣接する法人介護施設の職員が駆けつけてくれることになっている。利用者・職員のさらなる安心・安全のためにも、協力者も交えて避難訓練を行ったり、連絡網を実際に回してみる等、具体的な訓練を実施して行かれてほしい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 下着の干し方にしても、「自分だったら恥ずかしい。と思うような干し方はしないで。」と職員教育をしている。言葉使いも、「目上の方だという事を忘れずに。」と日頃から伝えている。  (外部評価) 時に、職員の声の大きさや言葉遣い等が気になるような場面も見られ、管理者は、気になる時には、「やさしく声をかけてあげてね」と職員に話しておられる。又、管理者は、「自分だったらどう？」と、職員に問う等しながら、個々が自分のケアを振り返ることができるような機会を作りたいと考えておられた。ご夫婦で入居されている方は、時には、けんかをされるようだが、職員は様子を見守り、後で、お互いの気持ちが落ち着くようにフォローをされている。	利用者主体のケアを実践することは、グループホームの特長でもある。利用者個々の生活の意欲や自信を高めるような職員のかかわり方等にも工夫されてみてほしい。利用者がご自分の力で生活をしていると思えるような支援を目指していかれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴を心掛け、自己決定できるように職員間で根回しを行う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、集団的にならないように、個々の意思決定に添った支援を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 「すてきですね。」「綺麗ですね。」と言葉に出して褒めてあげる事を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器は開設時に皆から寄付して頂いた、温かみのある陶器。皆が協力して楽しく食事作り、片付等を行っている。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者は、職員と一緒に台所に立ってねぎを切ったり、配膳を行っておられた。朝食は、事業所で手作りし、昼・夕食は、ごはんとお汁は事業所で作り、おかずは、法人の厨房で作ったものが届くようになっている。管理者は、ゆくゆくは事業所で食事作りを行いたいと考えておられた。果物がお好きな利用者が多く、食事に果物を付け、朝食には乳製品を付ける等して楽しめるよう配慮されている。梅ジュースを作って楽しまれたり、季節のよい時には、中庭で焼き鳥を焼く等されており、利用者も自ら手伝ってくださるようだ。体の状態により、少しずつ数回に分けて食べる方を支援されたり、切り方を変えて食べやすいように支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居され皆さん体重増加されている。主食は控え気味に、副食は野菜中心に品数多くを心掛けている。健康診断の結果等で問題のある方等は、同法人内の管理栄養士や看護師の方から指示を受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員トイレでの排泄である。流す事が出来ない、便器を汚す方もおられ、プライドを傷つけないように、そつと後始末を行っている。	
			(外部評価) 利用者は、布パンツを使用している方がほとんどで、トイレが気になる方は、トイレに近い居室を利用できるよう配慮されている。夜間は、居室から起きて来られたら、職員がトイレに誘導して支援されている。トイレには、既存の表示と、他に、大きくトイレと書いたものを付けておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 夏場は水分量が多く摂取できているが、冬場はどうしても難しくなる。みかん等を食べて頂いたり、食事の中に水分を多く取り入れ工夫している。水溶性の食物繊維を多く取り入れるよう、心掛けている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 最初は自由に入浴されていたが、次第に不公平を訴える方が多くなった。公平に入浴できるように日にちを決めた。入浴の嫌いな方もおられ、強制的にならないように臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 現在は、「肌が乾燥する方が多い」こともあり、医師と相談して週2回入浴することを支援されている。湯上りに保湿剤等も利用されている。入浴を拒む利用者がいると他利用者も釣られて、入浴に気が乗らなくなるような様子が見られるユニットや、入浴を希望する方が多く、公平感を持ってもらうため、利用者個々に曜日を決めて支援されているユニットもある。日曜日を入浴予備日にして、入浴しない日が続く利用者等に声をかけて支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、マイペースで過ごされている。清潔な寝具で安心して入眠して頂けるように支援している。昼夜逆転されている方もおられ、医師からのアドバイスを受けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬の内容をいつでも見ることができるように、職員の机の引き出しの中にファイルが置いてある。薬に関して処方等が変わった時は、必ず、個人申し送りノートに記入。体調の変化の有無の確認を怠らない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お茶を入れるのがその方の役割になり、「朝、モップを掛けることが私の仕事よ。」と言われる方。必要とされている事の喜び、張り合いを引き出せるように、支援を怠らない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地外でも一人で散歩に出かけられる方がおられる。自由に散策できることに喜びをもたれている。場所柄、坂道が多い為、転倒の危険性が多い。散歩などは、必ず職員が付き添う事としている。買物等、日常的に行っている。 (外部評価) ご家族が来られて出かけられる方も複数おられる。法人理事長に会うことを楽しみにしている利用者がおられ、時々、職員と一緒に会いに行かれている。利用者は、職員と一緒に回転寿司に外食に行かれたり、おやつにドーナツを食べに行ったりすることもある。お正月には、地域内の神社に初詣に出かけ、知り合いに会ったこともあった。利用者から、買い物等外出希望は多いようだが、職員の人員のこともあり、これまでは出かけることが難しい状態だったようだ。	2月からは職員数も増えたようで、今後は出かける機会を増やしたいと考えておられる。利用者から、「しまなみに行ってみたい」という希望もあるようで、管理者は、「暖かくなったら出かけた」と話しておられた。時には、ご家族にも外出支援について要望をうかがうような機会を作り、利用者個々の暮らしが地域に広がるように、ご家族と協力し合って支援していかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 全員お金に関して管理ができない。家族の要望もあり、所持金は、事務所管理。お金の出入りが明確にわかるように、預り金としている。必要に応じて所持し買物されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話できる環境である。精神状態等も考慮し、家族に連絡、話をして頂く事が多い。お孫さんに手紙を出される方がおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> ユニット入口の壁面には四季に応じた飾り付けをおこなっている。冬場は日差しが入り、温かいユニットである。夜間、小さな明かりや非常灯にも混乱を起こしている方がおられる。感知式のトイレの電気にも混乱されている方がおられる。設備上どうにもならない。昔ながらの物が一番よい。</p> <p><b>(外部評価)</b> ユニットの間には、中庭や洗濯物干し場を作っておられ、居間や廊下等から出て、建物の周りを一回りできるようになっている。敷地内の菜園や庭はシルバー人材の方が世話や手入れをしてくれるようになっている。居間の天井は高く、梁が見える造りで開放感があり、又、窓からは山々の風景が見えて、調査訪問時には山の木々に雪が積もっているのが見えた。時には、さるやキジの姿も見られるそうだ。転倒防止のためにできるだけものを置かずシンプルにされているユニットや、お雛様を飾り、ご家族が毎月お花を生け替えてくださるユニットもある。感染症がまん延したこともあって、事業所では次亜塩素酸ナトリウムで、手すりや手指の消毒・食器を並べる個々のトレーにもスプレーで消毒をされている。又、年に2回は掃除の業者が入ってワックス掛けや窓ふきを行ってくれるようになっている。居間の一角には掘りごたつの和室があり、管理者は、「利用者と鍋を囲むような機会も作りたい」と話しておられた。さらに、利用者の居心地の良い空間作りについて、利用者の自宅での暮らしぶり等も参考にしながら、環境作りに取り組んでみてはどうだろうか。又、利用者の活動意欲を刺激するようなもの等も、用意してはどうだろうか。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 畳でくつろいだり、家族面会があれば、掘りごたつで話をされている。床暖房であり、冬場でも寒さを訴える方はおられないが、床でござ寝をされると困ってしまう。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 使い慣れた家具、本、思い出の品々、亡くなられたご主人の写真、お位牌等、職員が口出しすることなく、危険な物以外は自由に置いていただいている。</p> <p><b>(外部評価)</b> ご夫婦で利用されている方は、一部屋にベッドを2台並べて休まれている。ひ孫さんとツーショットの写真や肌のかゆみがある方は孫の手を置いておられた。利用者の誕生日に事業所から贈った写真付きの色紙をベッドサイドに飾っている利用者も見られた。化粧箱に化粧水や乳液を入れておられ、毎日お手入れする方もいる。調査訪問時には、ダンスの前に座って衣類の整理をしたり、ご自宅の庭から盆栽を持って来られて、世話している方もおられるが、日中は、みなが集う居間で過ごされる方が多いようだ。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p><b>(自己評価)</b> 建物内で混乱を防ぐ為に、説明書きなどを貼って対応。理解できない方には何度も説明を行っている。</p>	